

平成17年4月25日
第13号

素流協 News

平成17年4月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

平成十六年度事業を終えて

岩手県素材流通協同組合

理事長 下山裕司

岩手県素材流通協同組合(以下、「素流協」と略称する)は、平成十六年度の事業を大過なく終了しました。この平成十六年度事業結果については、来る五月十二日(木)に開催される素流協通常総会において詳しく報告することになつておりますが、幾つかの主要な事業の結果と経緯を簡単に要約してみたいと考えます。

1. 十六年度事業実績について
(1) 販売事業

素流協の共同販売事業の計画量は、四九、六〇〇m³を計上していますが、素材販売実績五五、〇〇〇m³となり、計画に対して一一一%という事業結果になりました。前年度販売実績二六、三五〇m³であったことから、前年度との対比において、二倍以上の伸びを示したことになります。当初、販売計画量

を決定するに当たって、計画量

(案)が過大ではないかと心配する意見もありましたが、組合員各位の活発な素材生産活動と協力によつて前述のような成果を上げることが出来たことは望外の喜びであります。

新年度における販売事業の計画量については、前年度事業の伸び率や事業の進行状況などを勘案して実現可能な数値を設定する考えであります。

(2) 県産材利用拡大推進事業(国庫補助事業)

この補助事業の目的は、県産材の利用促進を図るため間伐材等小径材・短尺材を合板工場に対して計画的・安定的に供給する仕組みの検討や素材の需要と供給の調整、原木流通体制の整備、流通させる素材の品質・規格や価格の動向等

調査・検討するための「県産材利用拡大推進需給協議会」を設置することである。この補助事業については、事業計画に即して満足できる形で事業を終了いたしました。

(3) 教育情報に関する事業
福利厚生に関する事業

丸太採材技術に関する研修会を北日本プライウッド工場(大船渡市)で、組合員意見交換会を盛岡市で開催しました。

(4) 県産材認証制度の導入・定着について

県産材認証制度については、組合員各位に対して、連絡通知や素流協ニュース第六号において、その内容の徹底に努めてきたところですが、合板工場に対して素流協が納材するモノについては一〇〇%県産材認証材とすることになっております。

2. 素流協の事業執行体制について

素流協が平成十五年四月に設立されてから、今年の四月で満二年を経過したわけでありませう。初年

度は、素流協が設立したばかりであることから、計画に即した事業収入の確保の見通しや組合員各位からの素材供給量について不透明でありました。そのような実態から当面、素流協の事業運営に関する管理事務については、岩手県国有林材生産協同組合連合会に全面的に委託して事業実行に当たってきたところでありました。設立二年目の平成十六年度に入りますと、一年間の事業経験と素材供給先との頻繁な意思の疎通、組合員各位の当組織に対する意見・要望の把握に基づいて、事業の先行きおよび内容がある程度明確になるにつれて事業運営が円滑化するとともに素材供給量の増加傾向が形として実感されるようになりました。そこで、本来組織としてあるべき姿の自立を目指して、平成十六年十一月に男性職員二名（高橋 早弓）、平成十七年一月に女性職員一名（星 文）を正規職員として採用し、事業実行体制の強化を図りました。しかしながら、素流協

の素材供給量の増加趨勢は急であり、事業内容も量的にも質的にも多様化する傾向が強くなってきておりますことから、これらの変化や素材供給先および組合員の要望・意見に適切に対応するために、今後とも自立的な事業執行体制の整備と業務の外部委託発注を合理的に組み合わせた効率的な組織の確立に努めていく考えであります。

3. 素流協の将来展望について

先に述べたように、素流協の素材供給量の増加傾向は著しく、この傾向は今後も続くと考えています。その理由は、組合員各位の素流協の事業内容と実行体制・姿勢に一定の評価を与えてきていること、新たに国有林野事業の素材システム販売制度に参入することが見込まれること、青森県の素材生産事業者が素流協の賛助会員として続々と加入していることに伴う素流協の素材供給量の増加が見込めるからであります。

次に、組織の名前が示すように、素材を合理的かつ円滑に流通させ

ることがこの組織の使命であります。したがって、生産箇所から需要先まで素材を効率的かつ安価に流通させることが、この組織の発展的存続を約束することになるわけでありました。その場合、山元での素材生産者、素材運搬業者、素材需要者それぞれが常に容認できるような長続きする流通システムを追求していくことが素流協の仕事であります。ただし、林業、とりわけ素材生産から需要先まで素材を流通させる仕組みは、地域的特色、木材産地と樹種、木材加工形態等々の要因によって多様化しているのが実態であります。そこで、これらの要因を考慮しながら、木材利用形態の変化に即応した合理的な流通システムの構築を目指す必要があります。

いずれにしても、素流協は、社会的・経済的な変化と素材生産者と素材需要者の要請に即応することを念頭に、長期展望を構築し、その目的に向かって一歩一歩進んでまいり所存であります。

今月のトピックス

サワグルミ丸太の出荷停止について

平成十七年四月十八日付け販売情報（FAX送付済み）で既にお知らせしておりますが、現在ホクヨープライウッド㈱に納入しておりますサワグルミ丸太については、製品の出荷が以前より極端に少ない状況が続いていること、また丸太の在庫も相当量あることから、当分の間丸太の購入を停止する旨、連絡がありましたので出荷しないようお願い致します。

第二回通常総会開催について

郵送にてご案内しておりましたが、第二回通常総会を下記にて開催いたします。

日時 平成17年5月12日（木）

午後3時より

場所 盛岡市盛岡駅前通1-44

ホテルメトロポリタン盛岡本館

4階「会議室」

☎ 〇一九一六二五一一二二一

なお、総会のおと懇親会を予定しておりますので、御出席の方よろしくお願ひします。

ヒロシの独白

『今にして思うこと』 “森林、その利用と管理”



かつて、わが国では、森林を利用することと管理することは不離一体のものでありました。例えば、

人々は、近傍に生育する松林で燃料にする落葉や落枝を集めて利用していたし、田畑の周囲にある広葉樹（雑木林）の山からは落葉・下草・落枝や小径木を採取して有機質肥料として田畑に漉き込んだり、燃料にしていました。しかし、現在では、これらの作業は、全く目にするものがなくなって、旧式の古い生活様式として捨て去られ死滅してしまいました。かつて、これらの落葉・落枝等を利用していたことは、松林にとっては過剰な土壌の有機物層の発達が抑制されて松の生育に適する環境が維持されていたし、広葉樹林では小径

木の適切な除去によって残存する樹木の正常な生育空間を保つてきたのであります。

これらの行為は、かならずしも、あらかじめ森林をそのような姿で維持することを目的として行なわれた行為ではありませんが、結果的に、それらの林相を維持するために必要な管理行為となっていたわけでありませう。翻って、現今のわが国の森林の状況、利用及び管理の動向・あり方を見てみますと、森林資源、森林の利用、森林の管理が、それぞれ無関係に異なるベクトルをもって勝手な方向に進もうとしている。否、勝手な方向に進んでいるのか思えないのであります。なぜなら、多様な機能をもつ森林は、環

境資源として人間生存の為になくてはならないものであるという認識が普遍化してきておりますが、現状を見てみると、森林の蓄積は著しく増大しているものの、これは、現在の森林の保育など維持管理行為によるものというよりは、過去の積極的な造林活動によるものであり、森林の維持造成・管理の担い手の動向は、極端に停滞傾向を続けているという実態にあります。

また、現在、適切かつ十分な森林の維持造成・管理が期待し得ない状況の中にあり、一方、森林の利用に関する期待と関心は、従来の林産物の生産、国土保全・水源かん養等の機能がかりではなく、地球温暖化防止に果たす役割や保

健・文化・教育的利用の増大、バイオマス・エネルギーとしての活用などが加わり、かつてないほどに多様化、高度化してきております。現在のように森林の利用と管理が分化し、明暗入り交じった状態で、ともすれば森林の利用と管理がそれぞれ別の方向に動こうとしている状況を是正し、再び利用と管理が調和し、森林に対する多様な社会的要請に応えうる新たな『森林の管理・利用の時代』を築く必要があると考えます。



ゼロ災でいこう
ヨシ!

さあ、「林材業ゼロ災運動」に取り組もう!!

平成17年3月および平成16年度の販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した合板用丸太の平成17年3月の販売実績と平成16年度の販売実績は下記のとおりです。

3月の北日本プライウッド(株)向けは過去最高の2,515㎡が出荷され、両社併せても過去最高であった平成16年7月の6,423㎡につぐ5,467㎡の出荷となりました。

また、今期平成16年度は、49,600㎡の出荷計画に対して55,046㎡の実績となり、対計画比で110.98%という好結果を収めることが出来ました。

組合員の皆様、合板工場、関係機関の方々に心から感謝申し上げます。

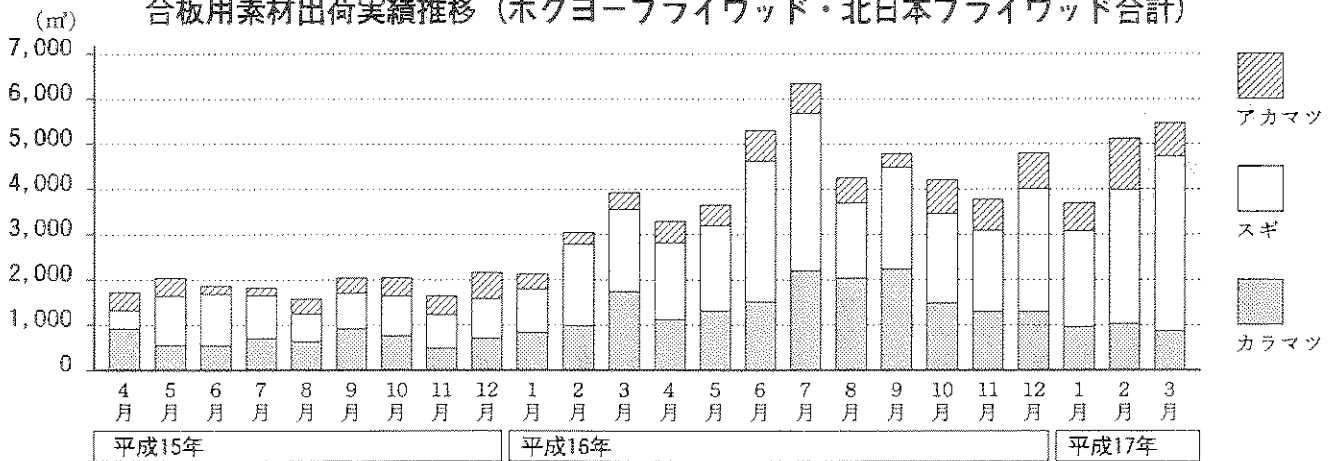
平成17年3月分の販売実績

項目	長級	径級	販売先		計	出荷割合	
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)		樹種毎	樹種毎
			㎡	㎡			
樹種	m	cm	㎡	㎡	㎡	%	%
スギ	1.9	14上	818	1,132	1,950		50.7
	4.0	14上	954	943	1,897		49.3
	計		1,772	2,075	3,847	70.4	100.0
カラマツ	1.9	14上	747	74	821		93.8
	4.0	14上		54	54		6.2
	計		747	128	875	16.0	100.0
アカマツ	1.9	14上	414	247	661		88.7
	4.0	14上	19	65	84		11.3
	計		433	312	745	13.6	100.0
サウグルミ	1.9	18上			0		0.0
合計			2,952	2,515	5,467	100.0	100.0

平成16年度の販売実績

項目	長級	径級	販売先		計	出荷割合	
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)		樹種毎	樹種毎
			㎡	㎡			
樹種	m	cm	㎡	㎡	㎡	%	%
スギ	1.9	14上	9,745	7,521	17,266		58.6
	4.0	14上	6,477	5,710	12,187		41.4
	計		16,222	13,231	29,453	53.5	100.0
カラマツ	1.9	14上	13,822	2,695	16,528		95.0
	4.0	14上	265	608	873		5.0
	計		14,098	3,303	17,401	31.6	100.0
アカマツ	1.9	14上	4,936	2,422	7,358		93.8
	4.0	14上	83	404	487		6.2
	計		5,019	2,826	7,845	14.3	100.0
サウグルミ	1.9	18上	347		347	0.6	100.0
合計			35,686	19,360	55,046	100.0	100.0

合板用素材出荷実績推移 (ホクヨープライウッド・北日本プライウッド合計)



▽ライブドアとニッポン放送・フジテレビグループとの間の熾烈な国取り合戦も決着がついたようである。この戦いの結末は和解とも引き分けともいわれているが、筆者の見るところ、ライブドアの圧倒的な勝利、ニッポン放送・フジテレビ軍の惨敗である。それにしても、近年の経済活動は、モノの生産・販売を中心とする実体経済としての戦いではなく、空中戦、いや大多数の国民の眼には見えぬ地中戦による虚空経済?が幅をきかしているようである。油断も隙もない世界になってしまったと、しきりに考える今日この頃である。▽さて国内では、郵政民営化問題をはじめライブドア・フジグループ国取り合戦等波乱万丈の様相を呈しており、諸外国との関係では、北朝鮮の日人拉致事件問題の解決に対する先行き不透明・長期化、中国の反日騒動(暴動?)の激化、韓国との竹島問題に代表される両国間のきしみ等々、東アジア地域に限っても問題山積である。一口で言えば、日本は近隣諸国に舐められている、と筆者は考えるのである。日本人、しっかりせよ、奮起せ!

落穂拾い